

変貌する地域社会と子どもの生活

八田 昭平 (長崎大学)

〈調査の動機と目的〉 この調査は、わたくし自身の専門的学術的動機に由来するのではなく、たまたま、長崎県西彼杵郡香焼町における地域計画委員会への教育研究者としての参加を要請されたことから始まる。香焼町は、面積約35km²の島であったが、昭和44年長崎市と陸つづきとなり、現在三菱重工業長崎造船所香焼工場の120万トニックが建設されつつあるが、この島は、かつて限界炭鉱島としての歴史を歩み、またオニ次大戦中は、軍部と結んだ新興財閥、川南造船所が、これを支配した。戦後は、革新町長が、この川南財閥と対決した歴史をもっている。陸つづきの島となり、新しく三菱重工業という大資本の進出の中で、当然町の相貌は大きく変わりつつあるが、その中で、いかにして、住民自治と住民福祉の政策をつらぬくかが、現在町政の課題となっており、地域計画の問題として、青少年の福祉と教育の問題が、新しい角度から大きな比重をもってとり込まれようとしている。長崎県下で、鍵っ子の割合が最高であり、学童保育が具体的な問題となり、これに対する対策が求められている。

〈調査の方法〉 これまでの地域計画委員会の報告書、町政資料の検討の中から、地域の革新的な状況を把握しはから、小中学生、PTA会員を対象に各種質問紙調査、面接調査を試み、これを、今後の研究と討議のための資料として作成した。これをまず踏み台として、地域計画委員会教育班の委員会活動、および、長崎大学教育学部学生を中心とする青少年の社会教育活動の中で、~~調査~~変貌する地域社会における子どもの生活の実態、その要求とビジョンをほりおこしてみたいと考えている。いわば、実践的調査活動を展開する中で、政策科学としての教育社会学を志向したい。

〈中間報告書の構成〉 住民討議の資料としてPTA会員に配布するためにもまとめた報告書を学会当日配布し、今後の調査と研究の方向について、批判と示唆をうけていこうと考えるが、目次は次のようである。

- 「はじめに・調査の問題と領域」
1. 変わりゆく香焼町
 2. 地域計画と学校教育の現状
 3. 子どもの生活と家庭
 4. 青少年をめぐる社会・家庭環境
 5. スポーツ少年団と子どもの生活
 6. 青少年のために

おわりに・〈町長〉〈町長〉

〈今後の課題〉 計画委員会を拡大し、住民の意向を反映する中で、今後の研究課題は明らかになってくると考えるが、(1)婦人労働と鍵っ子の問題、(2)高校進学と勤労青年の問題、(3)社会的問題児と社会家庭環境の問題 (4)学童保育施設・児童館・児童公園計画のための基礎調査などとりこんでいきたい。

専門の研究者の多くの御意見をいただきたくおぼえて発表いたします。

